素人狂言紋切形 上

へ遠18
1713
1

名古屋本屋文藏 新町
名古屋本屋文藏 傳馬町
1713

素人狂言絃切形自序

一ときこえし唐山古代の狂言を更ものいはず。我大戲場世話場打幕明。はるかに日本書紀乃正本を本讀まば。夫八洲の坐元さん天照大神。戲房の雄失乃役不足とて。山簾の影石窟に入りて。磐戸を閉て幽居。幕閉夜乃晴歸と失ひ。頭取月日去幽沒を覺えず。

世界を黒幕の常暗しかくよりも。五月蠅めす
うゝがとりの神くらち。夏芝居の札銭安河邊に
初會して。神會小會あるべく。ゝきの小刀細工。
せうらうぞふ夫くらうめ仮小めゝぶく。白奪乃趣
向と思兼神冠作者あるて。神はくり手
はくゝふゝ陸。常世の島を見物やす。
り幕乃出陪浄瑠璃。豐芦原の中賣に

賣場のふ。嗚呼はゞもかきも。手力雄尊の滝
事。誰ゝゝ思ふ。猿女君の遠祖天鈿女命
の忽然拾出。手ゝを茅纏を稍ともち。八十萬
の神くらを出雛子の下笑合して。庭燎の
神樂所作事の俄優す。大神ゝと細
窺して。大日本やの大夫さんいよ大地神
さはくゝ宣り。立神で要弃彼の本

原ゆうりゑ。こゝよりこれ以降。風俗乃要旨。
或ハ俗伎。行ゆく〳〵ハ翁おどいへる猶時をさゝぐ
かゝれども。火酢芹命とこれ塗顔乃肇つくり。
今ハ戯子の濫觴なるべし。八雲出雲の阿國。
名護屋山左衛門と倶にはじめて物真似狂言はじ
まりそのゝち。今尚三箇津に猶を猶く洗ひの
狂言笠とかゝるべし。いかゞ〳〵官家ハ存なるべ

しかれども勾欄の試者ハ濫〳〵。たゞ〳〵こゝに
贅ぜず。什藝〳〵素人演劇を。以ゝまの
御代より鼻祖なり。

神武天皇元年より今文化九年まで凡
二千四百六拾余年ハ墨痕を經しども。
紀記史類ハこれを載なず。口碑世説
かいまゞはなるず。賣茶翁ハ手まくいとも

こんぐらく我の茶番師と稱す。狂伎某が
是ぐうとても学ぶべく他の狂言師と呼ぶ。
一説白兎如在三樂。富士藏等が屬乃人。
賓儐ようの安永中。各狂言茶番の名あれど。
下流と汲ぐ水原遠く。且當年と共に亡る故。
真ち素人といふべきあり。熟素人狂言の
主意と監ずる。自他を撰ぶべき我かより。

己を獲て他を育す。其故如何とかなれば。吾
飯を食ふ他の口伎とはなる。我腹を充て
他を育ず抔と云ふ。是便ち自他を撰ぶ
しく無我の至ると云ふべき。吾幾日打産
業を棄て他ち一夜の酒宴を華し。我
雑費を不厭して他に景物乃種頭を惠
む。是乃ち己を棄て他を育ちるべき。

大鋸屑をいつてゝ。若お利口人ありて。
ちゝと一時乃凝呆と謂ん欤。三十振袖四十
島田。慶子百ちで踊を好ず。戯棚と好む
李園ハ奇〳〵茶番と嘗む差命い。高野
六十乃小半ゝ有り。那智八拾の春仗的今
拙ちて。是とも一時乃凝呆とゝ。差菓子
の唐人踊。幸大寺ハ田婦躍も又凝呆

といふべきや。ちゝも神代乃俳優を優今ハ
ゝで素人なり。今素人ゝ〳〵俳優とする
ち自ちと神代の類なるべし。亦人の
万葉家。醫人乃古方家。書家ハ上代撮。
儒者の古学といふべきも。我ゝ山ゐ作
業なり。こゝを我ゝ〳〵ずゝ〳〵自ちと
古ハ悔ふを想ふべし。狂言茶番。素人狂言

府〻復古学やいなむ。嗚呼
妄言なるのみ。　文化九年。壬申
四月下浣。本町小紫欲心澤玄小
亮と抹茶。江戸市の市隱。

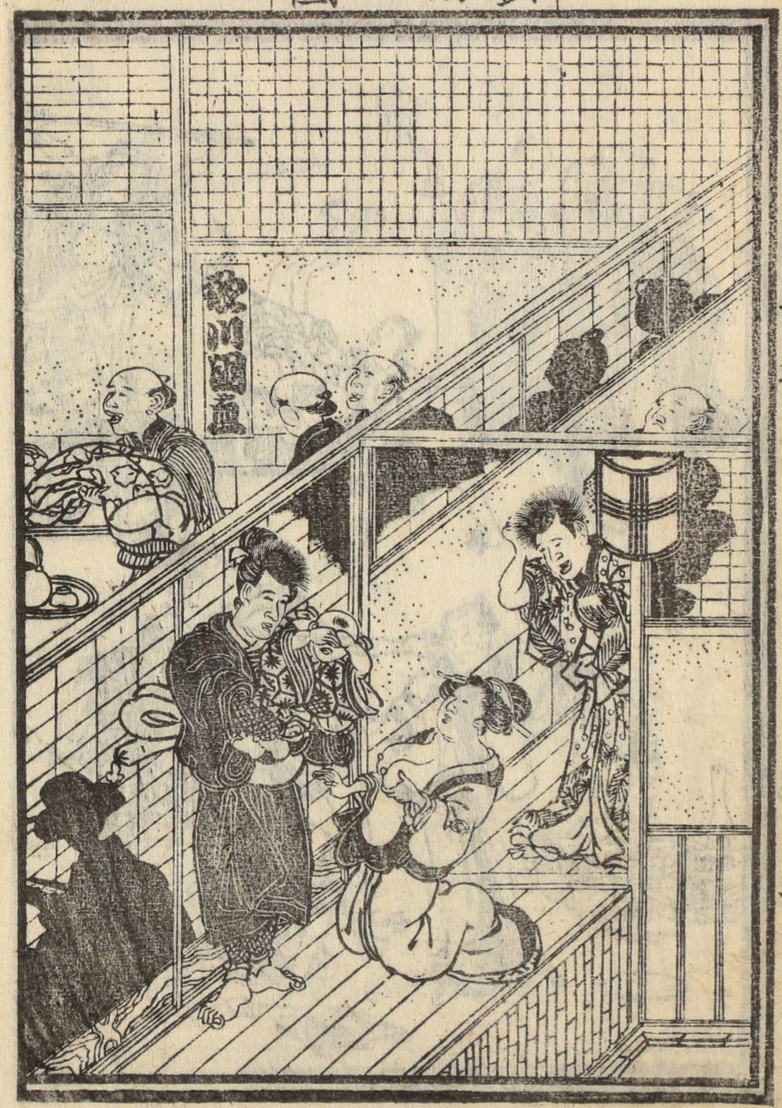
式亭三馬戯題

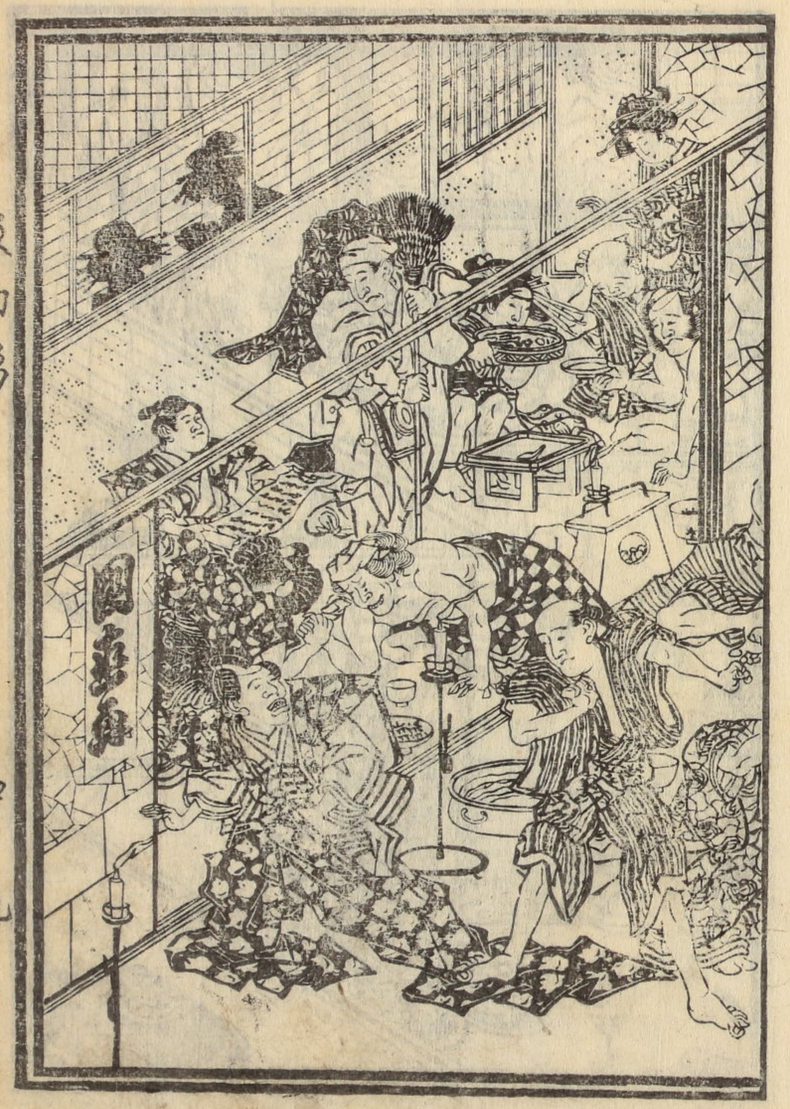
四人　五年三七五

専用
佳繻
精工
刷印
不破
不落

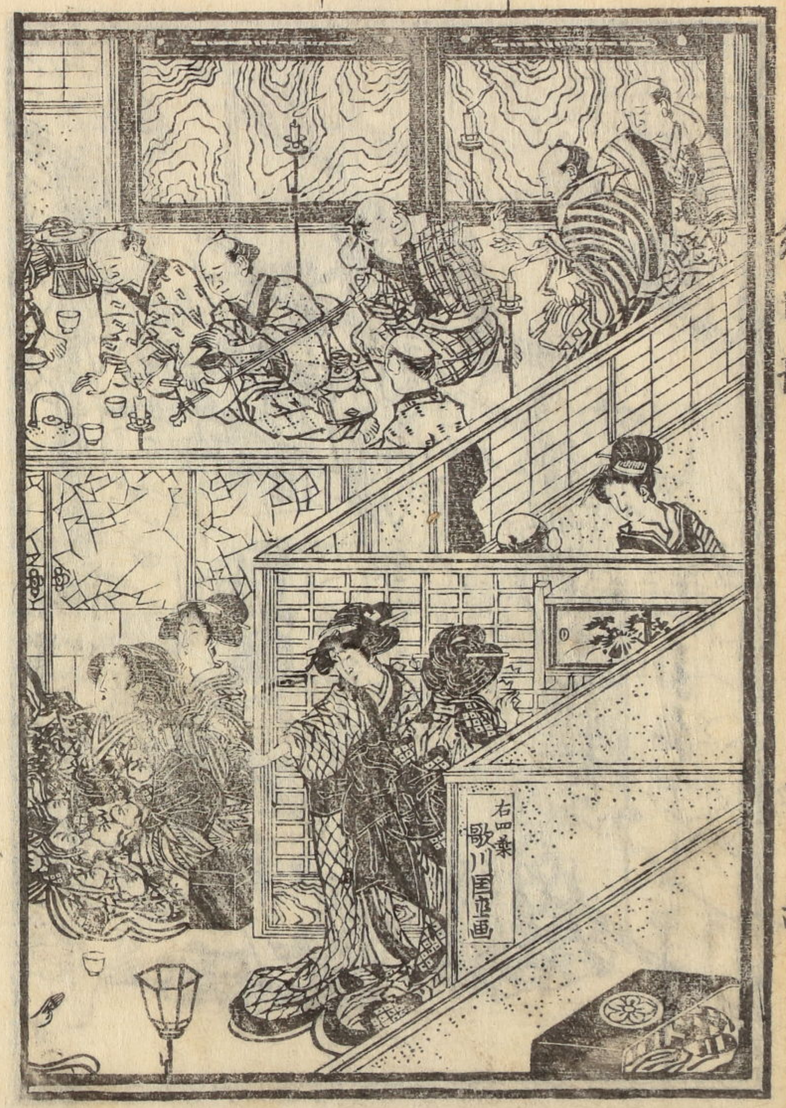
性善山
生涯偶能脚色
巧浮世絵師
播磨徽郎
武蔵道人録

附立
惣
さら
ひ
ろ
ず
圖


戯作者の図



其二



其三

○古今百馬鹿　二編

馬鹿といふ馬鹿をつくしさく初編よりもてろ人物紙ゑてろみ
くさぐさをつくしきつのスさぐひとひとてびとさ紙まれぐうまに
をそろひさのろひおのづろ拙べき物作まづ愛兄の時紙
まちを人

○紋切形　二編

初編よりつづきて巻あきのありさるれとろ〻キツカケの
きろくさまざまを巻くとろ〻紙つくせり且見物男女の人情紙
うぐちたるを猪上の方福ゲ家あるそ筆下るれ云あるを
目おろうぐど来陽ろるもど風市を

右いづれを當戌の秋ろ本屋〜ゝ山ぐき　板元

尾州宮下富江町之切

素人狂言紋切形初編巻之上

江戸戯作者式亭三馬　戯編

雲霞たてるやいづこ三ゝの。岩三浦うらころき。
花さくらめの法ぐさよるさ。さるされいろにわひあれそ。其
かゝのひぢのかどるる。いゝ〜ゆげんのろぐくも。ろどけ
ぬふこのあらほ〜城の〜くとめて寄ふかれ。手
くぐふぬ〜をまち合ひの。辻うら菓屋の首尾れ松。

うまゝ此森と孫入歩バ。角のまゝらのうをけふり。句ふ
ゆゝぐの風ふはを。孫ハ上野ハ佛菓子。ト江戸ぶしをうゝ
うけ今の助六きどり。いづ也も尚世風の男ゆゑ一人ハ春抱「江戸節といふ所ハどうも雅で
いくの。今一人ハ秋狸「さうさいづ也江戸ッ子ぐうるゝて人也
孫人ぢやァうらこぞ。夾「松の内或ハ矣を名。ちどくいふ
所ぐ雅味ぐふゝい。秋「助六の文句もいろくあるの。夾「いろ
もあるゝ分。八百彩のぐ廓花道。羽左衛門のぐ所縁江戸櫻。
門之助ぐ廓家櫻。その狂言の度毎に外題ぐかハりかを。

八百彩の文句ハ掛詞の通ぐろう。今まで代くの図十郎と
同じことぐいふるさ。いまぐ宇醫ハいくきあぐ。秋「ある初ど其
他ハちろこぐく文句ぐ賀てあるの。夾「いづ也も上品でいく。
秋「そこハ雲上ス。夾「あの紫式部も病弟巻ハ左で
結ぶぐ。助六の弟巻ハ右の方ざあよ。夾ぐろう式部巻の
ハ不審。トいひるぐう右の顔くゆびざを。あれハ陰陽和合
の理ぐあるけ也ど。誰もちろ孫入るゝさ。是ハちぐらく秘し
ておくるス。ト此二人ぐやさぐれおさきの手。渚方の高名家人ハ也ども。
只一面の知己。あるひハちろぐふちろこちろ孫さくあり。且

きぞんの人のくちまねをして。ぐやの方言をかまぐさふこをり。きのこをうるこぐ成つくひ。きれんの人の人をにくらくきこ臣。一分も見ぬ人まで百年もるじんぐかうにさ彩。万事のこここをぐさまで。ようくさーぐ。何事もおれでなくてハなりがワーぬとうめが主。他人がげげでハきこをいーなるぐら。面白でハおぐろきろ成う世ぐり。かひるくをもちこを。ろってうれーぐり。おの主ハ又めうこの人ふおぐろうをはに。法ることうこうぐそにるをとろうそ。人ぬうきーぐるぬ風なり。大ーんうとなりへ徹づふきこるひ主。こあにるくと見せて金紙つハぜ。たぐ我がなりふどお捨て。他のくあたハひもるのうにひるとつひやー。おきぬとうぐ主出きぎといハ主。苦労性とあざ名をうけ。他人にきざがうれるとうぬたハけるう。元来ちぐうたいさう紙すき。黄白を惜ーみて見えるゆえ。利ふるうやーくハ世けんへ大きにうけあーく。又ぐすきものの性るぐうひきぐ来さ。あのうがくちにあうてハ世けんへきここんぐこるの。されバとてこうくもるふぜ。角ちぐことのへるぐくかぐーぬく。爽「コウ」秋理人物なり。ぐくあるる稼ふるくへバうきこと知けん。他人と海に犯ふという。

さん。ああくハうらやはーきんぐぜ。當時高名の人ハ皆知己。誰でもおめくをうく極くりのハねくぐ。できんのよ。その上に

黄白ふ富居ることさてあるうう。鬼ふ鍬棒。兵学ふ長刀。秋「ヘン」

ようくいふぜエ。よろーくナてぐ。トひども辞ふ。あれもこちらう心

やすくもる家も極ぐぶ。向ふうるさく出ぐて。彼是とまちはけるうう。きくぐ極く。爽「清ふ」秋理さんうりうてさぐうるさうらうよ。秋「おめくうらの目うハどうやう出さきこにさきこ所やうにハえるぐらうぬ。山方輝をぐうとうきて。他の輝で角力とるこのふ行ひでるうう。欲ふ多如も行ぐうう。潰ーして居やと。ハテ今時ハさうあくてハさぐまう極く。チト押乃重へ

後ぐ。おくでろう極内をいつが。ハテサ。大尽と呼ばせて金紙はろ
ぐさ。ちょうのような割合ぐ。なるべく猫撫でゐるとさたの
奴もおまぐ威ふるそれてだまされんス。是ぞ新の奢や。一寸
何ぐ人お供るぐくいふ命も。切掛くうぢゃ行くろ。ハテ金を
よくとると方図が行くふる。たとひ金をつかい行くでも。おれば
主人をもると。さきの内でハどこでも徳が行うといつまで。
あ〜くふ行く。又近所の浮でも。あるところの内へ秋程が毎日
来て遊んでゐるが。おりくと後に金にあるぐらうとりいふく。

そこで此方金つかぐの。酒をのめばとても先の酒をもかい。
コボ牙殘をへらさぐて夜でも居る筆屋。ナニトあくふきろ
ぐらう。笑「おそろしの〜。おりひの外ゐる小人ぐの。秋「小人
といふれても所とも居ぐど。呂金紙つひをとり出て一文も
つかぐど。口ばろう大盗紙吐くのくコウ。ばろ行くるくぐ。どろぐ
料理屋を寄つぐど。おりくも行てやんねく。笑「ハテ。秋「ソレ。
今ぐやァ此方絵約半一とりてゐるうろ。家で好る西とうぐろ
とっナニサ。石町紙ぐろと行くと一丁目二町目の間の模町

をゝ〜居へまゐると。半町ばかり行べき本戸がある。夾「さ有く
金ゝ町通りゝゝ白浪町二三の間へ行くところぢの。
秋「さゝく。あの本戸はそれ〜〜例屋万吉と云ふ一寸
吉さ料理家がわり母と「ハテナ吉〜延笠「秋「まづ仕て
こんなことさ。とつゝく食ふ所ぢが。やはり奇麗ぢ。
夾「價はどうぢの。秋「いろて下料ふわりて。ソシテ塩梅が
奇麗〜。たゝやくいぐ〜三両もする大洋でおどろもやう紙。三百
ぢうの洋へいれて出すヒトコ昼が。料理ぢきろへ、ヤモうまいるす

たしるにのあ〜。夾「あまも安いだろうでうほくあくては
家ぢ稼へ。上手で安りるやう大きに言まありぢの。秋「ソコデ当時ハ
こゝくと孔方紙費を法ぢろう。あそこの因へ行く。ア〜さあ
〜だろう往てこんか。甚代二階ぢせまくて昼の二階ぢ。何も
料理やゝ〜こうすか〜。ほうまく安いといふ所で高紙とるのぢ。
仕出〜やどがあるやう。ゆゝくて安ぢ。夾「そうつきてわるぢ。
今夜いくべ〜と云う。秋「チト腹ぢ酒ひりぢう。夾「うさア行く。
秋「あれこう早飯とって三階へ上らうう。イヤ夾う遅らうう。時々の

た絵が四つ五つとのこるう。今夜はあつと早くあるこう。（それをたべるうちやすみのこと。）
三階へいくと方々の部屋へうろうろヤレコレトいつて一ぱい一ぱく吸居る
男ども。長羽織付の相撲でうろ〳〵せる。そこの二番目へ何くれ
役ぐち格の書ぐつを絵く。一ツ立ちてくれとつぶ。ライウレト吹ひるぐ
しあも。ふるい絵くろう。かづろう師を呼んで。おれが指図ウしるぐろ
おせるう。彩の格へ白が結とろ。唐紙がいとろ。名付が何〳〵で。
紅柳が彩のふあんどと。一ツ〳〵にろちの後ろう産生〳〵して
ゆくろう。他ろあ一役よ。ゆるんでも初日紙ぶつはるまでへ

彩ふ紙出をゆうか心のちで。まづ二三月へ月もたるまさぐと見物
して。善悪紙又定める人。でんがう変へいぐ横浜へ通ら
絵くろう。評判をきいつろう見物のふりらを家ろてかしを
ふつうといふのさ。彩ふひろうけて世話ゆくゆんぐろう。
三階ぢやうれ〳〵ろうぢやわろ。変ぐろう何屋の新方
でも。何屋の方変でも。おまぐ何へそろ只一絵へ。ト是年暮きらるまうのうそを。
ぐろう義のるるど。ちろうとのさーぐをうるのふあうぞ。これへちろうとこんーがう
ろ。ものちやうしるるれてーまひあり。夏やうろうて一変ろ二ろ。他とお後ゆるるもあ武新。
これ、意年の人をてくぐろるうけあべー。又日は人実に三ぐのゆくともおそのく紙
るべ。人のあぐワてひをうけてにろうぐるくちろ。おそらくへ三度ともちるぐーして。

例のいろいろ紙 爽「こりゃくあるところの曲ばしで今のを見ると。秋「されば。
爽「あやしゃ婦人ぶ。何ぶとも〜紙してあるぞ。秋「さ。何ぶ男
の耳へくちびるくちびるに唇のそばへ婦人ぶ。爽「夜見まる見笠の
内ばかりいろいろよ。秋「別て美しく見える。秋「月夜あるどは
格別ぢの。爽「あるたしふ書河岸のお酒ぢぜ。秋「親は
あられどあれ貧つぢ。ちっと見移る内ふ娘娜ある者ふあり
とこの。爽「蔦ぶのぴいくをふいて雛草で姫さる紙巻て
裏河岸の石墻ぶ鱗を拘居とのはけ方のかうぢっけ。

如ばかりあくまで役ふもしぶ。又考るもたりのの。秋「さうさ。あるく
舞ふいけばい。爽「踊こと人ぶの主ぢ。さうまぢるくばの移べ。秋「蓑
付賣居もはんぢぶちぢやア移べよ。爽「居猫紙ぶちぶ。
迷ふべきぢ〜。おそるべきぢば婦人ぢ。仕方あどは大居〜。
秋「ちっ〜大居〜こといのの居ぶぢ。手紙〜ちっぶ
人一倍迷の紙見てば世の中は習俗ぢ。ぶの書紙おきて
味屋筆紙さげっもあれば。南京木綿の巻紙織〜て。横
ぶでちっと小女ぶ。錦繍ふるまいて。書簡をつまでおくも

あり。栗「さういふ内にも浮虚者めへ。でんがうの方へこしかけ
出たぞ。秋「これぢやあどうもならぬ。これも閑だ。栗「茶で
食ふ蕎麦も好くねへ。ヂツト待たうのみにて何か踏付
るよ。秋「大悲ハあそこまでの栗「大悲大悦どのこちらを
見る。秋「アレくあそこへ箱提灯が来る。あのひとであるさ。
栗「ウニヤ鳴ぐ方が捷径だ。ムウ。よしく泥ぐまづ是みて
安心。パア箱提灯ぶ弓張ふ。茶屋の奥のとつれそれて
越長の丸提灯がみえる。秋「お宿下りの女中客だの。

栗「ハア蟬の声でうれしくなしとしきそめるに。秋「菱川師宣筆。
栗「日本繪と出てやはと絵とよませるや何か。堺町が大繁
昌の。秋「葺屋町ぢやあ。ヤア大勢だ。お宿からのお人を案
じるが。此傍楽屋がお三方おきなりあそばしました。其お跡が
あるから。おつきやア大人数だ。栗「なんでも三軒物は丈夫だ。秋「内
翠簾のこから五までいふ割紙十日ほどかれ附込でござらう。紹
上大入大入大あたりまで割わぞ。大当日お日 栗「新らしく三ツ寄揃ぞの有る往
お屋敷女中ハ雲上でござ。どうみてそもも人構がいく。早しいるすが

あくて別かのんど。据摸ふ向の下著。秋「あつちこれ編編
編ん。お召更あをだ〜さの。下い。どうも人物ぶ格別ど。ふく
出来合のお初ぶ少沢山よお借ど。亥「投能のぶある。あれぶ本
役で沢ハ賀お初さ。秋「いづ亥。ちよ亥おふ出ぶうとふ人物ど。
ト文ちよそ
ふくふる。●あやまきの女中元。だんかさまとおやーきの二人。みにお宿の母親。
塩。よる。半。ぶくいづぎ人ぐ太勢ま。むひのめにてちん
つけさせ。どろくト。あゆきるぶく。▲新宮紋さまくろくろくて
芸者元。「新駄「ヤレ〜ふふふ。お陰で大ぶれ〜ぶと
役ま〜た。ちるほどぶ亥も〜く能の稼。田之助も奇羅ど稼。
けるまでお奴さんどろけぶ。いの百ちる三者ふちるほ〜ふ。

いさ文化九年の暑
姿ろう際
古人道
役者ぶ
山出ま
流ふホ
ぶくふ
おそぶぎ
ふやく祖
読わべ

あ芸「さあうでございまを。ソシテ舞基ぶ達者でぶざいまちろう何
でも出来ま〜て。是ぶ悪いとふふるぶざいません。名「ふんさ。
故の納子ハ能い子ぶであるふ源之イヤナニ今ぶ十郎といひ二人
あぶろう上ぶく。わ〜とまふと探ひも拂ふのの。そ〜てア半三郎と
ぶ。ぶ。いいあてを能い稼。まふとふ上ま名人とふのさ。芸「バイ。
私ハモウ〜く推ろう言羅屋ぶ能うぶざいまを。ちふと庭家の対
ぶ芸言羅屋の似面絵ぶ人ぶ。絵著く庭ぶさぶりまを。
芸長「いろあや。ヲホく。▲お現ふふふ中。これハあのくおそを。おけん
ちぶぎ。ぶの役ぶる女中元とふそろ。「小間十七と

出発。アノ手ッくるつさる紙。まことに〳〵めつきりと上まあるさ程。
日ごうやどうも〳〵よくそ〳〵なまらんよ。お紙「五個ッく〳〵沈む紙
ありてまくれた。あん「イエ おまへ六三郎と申めでるいろう私もろ
やまをん。こりゃと「それよう松助が縛うおざいまをいる。お紙「ア。元分の函館
松助もよいがこ。宗十郎もよいがこ。そまよろうまごく〳〵大和屋
さく〳〵。坂三津さく〳〵。坂三津がまことに〳〵縛縛どうもこう
よろうねどいをどうと皆異負ごろらどういさきういろ
そモウおまろこよ。あん「お紙。おまへも甚きる。私もこ坂三津

沈こ。三朝小国十。女形で杜若流考。田之助国之助。ヨヤく
いろふるてもや。仕子角もいあきれるよ。まだやア皆異負ごろ。ア。
誰でも仕角ろ皆よいのさ。ヨヤく。まの多いろ〳〵縛く。私も
言羅屋たろこ二人さ。行もよいろ。ア。ア一ぢん異負八幸左衛
どよ。お紙「それ出発。仕角ふもやつろまが多い。イエ私ろ
幸左衛ひとろ。お紙「イさろうろ出発あそこ。ア「アレこ幸左
さんもあそこ。ア「よいよ。お幸ろ。幸左さんもあそこ。
どれも紙いのさ。まへこの国移りのもるのがろんこうけりこ。

今の若手はまことによく上手でござります。モウまことに感心でござる〔お宿の母親とあがめしく〕
年寄のヘイサ。お部屋でおつしやるとおそばも通り。此お部屋とハ部屋親方のさしていふ名称なり。只
今の若手ハ皆器用でござります。それがかへんでござりまして贔屓を
時々がござりまして移るとハ申ながら。先達の贔屓とゆふものは
いつまでも替りませんもので。私共ハ八百蔵時分から大贔屓でござい
ますが今に助高屋がよろしうござりますよ。惣体役者の贔屓盛
とやら申ハ。猿ハめのでおざりますが。おかみもどうおもしめそう。マア考て
御覧あそばせ。高麗蔵時分くらいにて只今まで幸四郎など

贔屓のある盛りの者ハ役者でござりません。高麗蔵時分とやす
ものハお部屋も町も一面に四つ花菱であつてそのものが今も高麗屋
高麗屋やくとやて。若手とおなじるなに贔屓がござりますぞ。役者る
上手にあつても贔屓づくハ若の内だろうが半四郎だろうが
いつまでも贔屓が多くて。アノ上手にて紙御覧あそばせ。江戸
義ふあふ義で實悪なんでも大丈夫でござりますぞ。〔幸〕さあらう
さまことに立派さ様く。〔つて〕そこそこーども八宗十郎く。〔月〕アイサさうさ
しー七宗十郎。〔ジヤく〕たつて今までく松助が贔屓でござる。ジヤく

あきれかへるよ。まことふく甘心このう。トがやく大きにのちに番組「立とる
ら。女といふもの六甲高な調子なものでの。モウ木戸を往還さが。
滝で聴へる。○秋狸「さうさ、まずこの気の宮さん六役者の面がちらく
みんえるのさ。トき二○万福が两の娘が宿下りに来るさうだがポン三会れ
女中衆で出かけのひ出しさ。○傍輩衆が下るが。○何も馳走が往へらる素人
狂言かしてくれといふるぞ。○安「ハさうよ。おれゆへも頼んだろけ。又
いふそのだの。○秋「おそれるけれど仕方が往へ。○安「おらアなんぞハ變衣粧
まろうるあるといふのんでる能が。おつてくく損料さ。○秋「拵て癒

いゝどう世入るのんでおんまりむでふあろ往へ。○安「むでぞ往へても有
之。チト金討てるか。○秋「何ふせうちろうん。時代世話ふせうう ○上

○時代世話ト八一番目のあさうと二番目へのつ狂言也。○真世話ト八真の世話狂言をいふ。たとへバ八百屋お七小姓吉三なとのくさるある狂言をいふ。梅川忠兵衛。お染久松のたぐひなるべし。

秋「まず案じだら往へ。○安「連中は
進ぐど。○秋「ぬ居地面の家守。○春「ゑん。○ちへ小さ大屋つパテチ。あれも出来る
この。○秋「どうぞころれてくそ。変らう能の間狂言をまあるのなのさ。

ウム。烏勘左ゑもん。ソシテ。高麗屋のまね成る狂言師も這入る。

ハテナ。何ごとらう。そ。孝思樓真蓮。それさ。何も来ごとらう。

彼の声色をつかふ医者さる。澤山玄翁。来る。あの醫者も古今無類居好じゃ。人体成ぐつて声色をつかふ不便ぢ。

あまも親父が死ぬと当陀佛ぢ。あの男は茅ぶきの山住まひ。餓茅ぶき。あゝ丞。湯の方が酒屋ぢ。桂枝湯の外盛る成ぢ。

方さの。からくとあらくぶまづよーまぢさ。里芋と医者とハ親ぢゃ大てん遠ひぢさ。其様に能ぶぢ。ぢやぐらもと止所

尾冨江町 宮下之切

あゝ。うぬひとりでこうべつ居る。医者が下手でも幇間医者で食る。近眼ぢさ。紙ぢ。アサ幇間医者といふやつハ色男ぢゃ。

やうなくよ。幇間や江戸紳が大きな面をして大平樂で我侭いへ。大名成る同業のやうにして食居る奴も當時ハ多く成への。其へ。全体みくるさ。人成食ふその人の男量。これハこの人の贅肉ぢ。

あたんである。なぞいふ方言ハ申る。今ハ大名も中にさびてきてだらつあちやア後れぢ。

秀佳が狂言ハ滑稽しきで。色男も男教と世ぢ。當世さ重く

しくきてゐらやゝ。めゝ者ぢさ。何ろいなまて。何ま詳り記る

しさ。トき二万福の狂言ハいつから稽古にかゝれ。秋「おもの晩一夜漬ふ拵て。咽喉見から稽古ふかゝら。イヤおらアおんふ友九が〳〵鸚紙绺虫しれヰらうス。トいひながらおもてへ出る。おんどくたがどろくと人込ぞの 妻卜「字あまりハ潮来紙唄ふ軒付ぐらう。潮来ハ真平ぞぞ。秋「ヒ三ヤ潮来おやア紙へバア声色連中が外をはゝりてあるくのぞ。夾「これをひと冂の放蕩ぞの。トいゝる。引違て声色紙つゝひあるく己ろのしゃ大勢。そろうくおそるまぶし紙ろくえバぞがう合の者をかす人宵。そのやかのいきて「紙雛の手をあんつとしとハあきらめるぞう。ハヤシ「アせの世く おゝううろ。きて一番聴ねぐイ。トうくひまそて来りる。△ べの君「今夜アまそきれ寒い晩ぞ。ナア。

鼻の先が切れるせうぜ 〇篠子民「蛸屋乃お蕎麦とたべい 〇津四郎たのよ「秋蕎麦があわりがてへ。〇さぞて此連中 坂三津安 岩藤倉蔵 篠子民 三朝条楽 国千郎松 あぶく おめく 役者物の役者紙名のりらんつけてよぶ △ないふハ「食ふかる さようあろんこをいとひて世の中ふなき作り名をあらまえそもに 国千郎松くら ふまでハ 市川岩井位がしと名のりて役者より娘を借るすあゝ。おんつり云居るぜ。松さんるぞへそうアお人柄ぞ。〇吉「遠紙人。〇遠紙人とのふ おらきつける「ろそハ紙へ〳〵ろうア紙へ。民「コウ今夜ハおもい露が出で黒字が出で二三枚さう まどいくぼ変態ぞう。紙へナ。安「サア彦兵衛でいくべい。〇彦兵衛とハうけ合の身。△坂三津安が秀佳の声色。◉篠子民が油子の声色。△水とうまバ天人ハ瑠璃とうる。餓鬼ハ是を猛炎とうるよ。人間もうるい ◉安「中元ぞ 人間ハとうる。コリヤ世の中ハ盲ぞはさ。△民「ハゝゝおの蚯蚓とりは虫が。おの泥土を

食ひなぐら。茶を食ふ人間を笑ふとの。●安アノ藤行ぶ。おのれハ車に乗なぐら。歩く人をうそ。あくせくもると笑ふとよ。▲民ゴウ獄門を見そ。見ぐ見いとそ笑ふとのやい。●安今。ろうや。ろうばけの陰稽よくもうてゐるか。▲民ろうぶハ昌勇の頼兼ぐらこ家でをーくて。●安ハハハハ

さうのや我が負とりつ鬼貫。力つのでふぐらしてもまくバ。▲民こそやく

亦廣言けうくハ。●安これとおまとぶ。▲民こんくらべ。●安翌の勝負を。▲民直

翌で。●安いざ。●安いざ。▲民大和屋よ紀の国屋アリ。「ある茶屋や酒屋」ゆかぐ。シタガよ。ぶけこ我が親父。茶ふのらげうら什

ゐをもうせるかどれ墨書ぐあるハ。おれふきつるとて死もちあく。ハテ。亭主が女房ゆふぶも。返付ふハ珍しい。新国古でも支婦ハ二世。さ人教ーてゐるかどれ。未来ハ一ツ蓮のたのすく。半産ゆふけて待てけうる。「高麗やアリ。」「菓今の義」「さらぶハ仕ぶ度橋ふ生て。三勝ぢやアねぐ。人ゆれ。あれさんーーとお辰さんてでもいう絵義手治ふ。れを人をうさせる今の一吉。徳兵衛さんハあやう者ぐ久。「ヨ」「絵地ーー。」「三我の義」「中青ゆそ」「花川戸の助六ともまと揚まれの助六ともいふ男達」「成田屋アリ。」「声色くーイ。」「赤蟇けうイ。」

「さるぐつは是にまさる。物体なくも仏生国。」「アテエとん。」

「無財天の由来ッ。」「エ。コウ。」「縁沿富八声多ぶ達者ぐぜ。」「一昨日の晩。出入先の日待くよぐれてナ。忠臣義乃七段目とチヨボくろ後ろ弾語で。幕明くろ振子幕まで。ひとりでほろくぜ。」「チヨボトハ義太夫の引込」「つるぎこうしろとふかまを「ぎくと」「安」「あつろア。中二階ぐろぷりあろア。」「松」「中の肉紙よくつくよナ。」「民」「立役ハ五六枚ぐ張ハくをぐ四て。」「吉」「克ど〳〵。」「裸清ろア。」「寒ろらうろア。」「松」「あつとろも年寄の時ぐ。ふやア。あぐろく。」「ヲリく按摩さん。」「安」「明てあるきる。米食ふ

宝ぐ居ろア。」「安」「ヲリく明ふ〳〵。」「コウ。」「寒の内裸清をまるろ。土用の内どてろア重て重着清を着くろどろぐろう。神仏も食ひ移つて居ろア。」「松」「ろんあよ遠寝。」「安」「まいろぐ弘ろめんろら。痔の神ふハろ移ぐさ。ぐつ色ぬ神ぐ。」「松」「色神ふろくろ三尺帯で居や。」「安」「ぐぜ。」「松」「三尺帯や色神やス。」「安」「べろぐう七夕ぐア。」「松」「てあくの面ぐ。」「安」「又ろうとぐろつて。」「吉」「七夕ろ牡丹踊。」「遠松」「馬鹿ア言やろ。ろやよ。」「安」「小道具につぐぜ。ぐろうなぐ〳〵ろ五合さるぐろ内ふ。及達イグつちよ鼻ぴ。ぐんとろつ編毛

髭むしろやくまやのおぢゆとやも。七彼のお方ハごぢりまもとはの若
四用とあるべ。家ふ居るけること。もとのうち煙名ハたるむ松とやまも。
松「べらぼういるか。安「まづ国屋のだらく生て。細い細工ふを者をつけ
らまもせう。たち「又とお国ハ多ひまもぬ。近うよりて山縁の結
でれまもせう。吉「そう〜山縁が結ぐりまもと。俳ふ悪縁。仲人迷惑。
あるく夫婦ハくうせまもぬ。民「そこ西ハ親分結合。松「で世の
まこのやうらご。あんまりそ縁ひか。吉「それでも色の白ふやと。
遠の奇麗ぬが七不思儀ご。安「そのそぐよ。三馬ぐ西の遠慶を

買ひて。やこと買ひて出るるう。民「今〜。あの遠慶買て何をしよう。
能ぜ。附句ひをして袋だるを句中ハ沢ぶ遠ハア。吉「ふさうよ。麝
香ふ猫丁子ぐりんどうに這ひ。民「ありやア御ぢやア縁ぐ世ハ
食で拵へ肉ぐきて出るぐ。五十と二十二文ぐ。どうちも紙。吉「ホンニ。
曲でおりひ出〜。おうぐ表のぐ〜。親父が来てア。素人相言ふある
うら雑子ぐどうぐ。お教ナて人ぐうア。皆ぐ歩ぐやア。安「行くべ。
松「ごこぐ。吉「表の地まよ。民「生ぐ表ぐ。行くうてうくる物ハ食せ
ろ。松「まこと食ふと成いよ。たち「それでもあらとうア。銭ハ行りやア

せぞ。弟子ぞ。
あきとの夢主ぞ。
へそれ者ぞや
稚くろう。
てあくぞやあんめくー。
屋敷ぞう婦ぞ下るとよ。
大の見ぞう用ぞ下りやア。
ちのうア独ぞみくそもいくう。
婦人ありぞく。
コウ〜出ぞもいぞ。
ぞー下座くぞちやア。
ぞ稚くあくぞう色男ぞ秘佛ゆーて座くのぞ。
ぞう彩せう。立役ぞあるぞい。
濡るのと一ぞんぞ出せて婦人と張てやらア。
婦ぞさぞ迷ふぞらう。
ぞ可愛さうに。
てあくの引導ぞやア。
牡丹ぞ焼香ぞ施主ぞ返礼ぞ。
ぞ。
者奴よ湯桶酒ぞあや

まるぜ。
コウ〜吐を服くやらてどうもなく稚。
焼場ぞ。
三
ぞう出やナ。
コウぞくぞも葬式を助よう。
金体ア進ぞ歩る。
又
何よ。
ぞ名ぞ名ぞんとぞう。
新彩とぞうきぞとぞのよぞとぞぞ。
ハテナ。
湯ぞ浴衣ぞとぞせて出て。
半月麿居る人ぞ。
春抵く。
ぞう長家ぞう。
ぞとぞうひとぞあの友ぞちぞ歩ア。
れ
もやーぞあぞ。
ぞぞあひの紋面で。
黒八の羽織ふぞ力をきあて。
大きぞ面ぞ。
十八間四面の堂でぞくちやア。
あの面ア納ぞ稚。
あの男ハ金ぞあるぞ。
あんぞる者ぞと。
稚くのよ。
からぞうぞう

でも出来あス。そこへいつちやア。とんちきの方が金びらア切る。あのら
ぐのハにびらを切るといのご。吉「そのくせ。いけ接摘が河ごゼ。安「ろんの
ぢらくらぢけエ。たゞ通をと藤ふあるア。ラット ぬるこゞ毛。荒だらし。
「頭巾を貴くひんまくぶ通へ。ろう。前りくるまハ結通り着ご。脳
天紙巻くあさろて色男ろくバ。緑青の通へちろりの蓋も
色ゞ出来ゆうん羽織の紐を門結て編ろ巻ゞ意ちろくバ。
紙雛さるもあ茶ア門ちやア居稼へ。黒暗を連てと臭ろう
きん〳〵ゆうバ。紙幣を連てと及も全盛ごらうス。博多の巻

ちあて編編ゞ。吉「ヨット〳〵ちなごとく。めう塩豆さ色利屋ハろ
つ。松「アて一番きあ所ごイッ。民「そんろう万福へりゞゼ。「風
ちあ稼へろ。吉「どうせ附立まで八日ゞかろア。安「黒くゆうもナ。松「コウ
人ろゞろう横町の黒文字ゞ肉へちけ迄で。あもの晩絵付るめの
を弾合せゞい。吉「あもの晩へ會ろ。松「ウム。ちなの晩の絵ゞ。
ちくゝゆうめ。ゆうてちてくら迄稼へ。たんとお給ゞ。「ひろで
浮て居ア。ゞ。民「あらアよもゞい。あもの晩めもんろぬくゝ
さうゞ。松「進進。進ゞさうろ。民「進でも立ゞバ立稼へ。松「あの葬

頭巾めさ。大恩なるをやよてす。「そりやァ又新ちやァん
どが。おめくのちが巫利ど。ハテ湯のふりで稼ぎふりてえ。銅壺の
湯でも手拭をあらしてゐるひとのやうあやァいくめく。そこハ同
う物ぞ。おのこァ住ごろても。そんなくの居る時ァ。別様であい
さりど。おめくぢやァ架住もるくろて。邪魔ふるがころいこけ
くこてゐる。ハテ旅籠屋の亭人ぐりて。「ぞりゃ迷ハ
お客様がとそんさどが。草鞋を解てあげると茶一盃呑ぐ限。
手拭振うが。暖を暖さろう。返河もあ様ぐ。人情ハひとりぐ。

きてこびエ様人の平人ぐのとあても。浮世ど。百貫那が法ての代
もるあうに。二百や三百のおぞまりでおまりがあ。めんか。おくも
一ぞん沒でゐる場ど。「こて一番驚ぐッ。「酒ハ酒屋さ。
さうおちやァ紋るめくらやァ様くり。「それもさうどよナァ。やり
ぞりこちぐこりり。「ハいとれやとき男ぞまのッ。歩ねく。
「おちァとそ人内イ。ゆるべ。「ハテ結ぶが。ほき合様く。「ウン三万
福へも一すと彩を出ぞろう。「おちも返ちう。「ライ一番ふ彩ぐい。
「あんど。結別ぞろ。おれと民の子ぞろう。「そんるるわとの暁

出ませし。松「ヨイ合点だ。三人「アイきんなら。三人「おさらばよ。安「転ん
ぞら起往経人。民「新文句だな。吉「遠経人。ト左右の横町へ松と吉立別る。民「民ゞ子
待ちやし一ト。ぴよくりぴよくるべへ。民「ヨイ洒落合ふ。ト二人ならびて明地の板塀のおへ小便する。
松「ヨツ。トびつくりしてどびのく。格子先民へ小便をかける。民「ヨく なんだ。コウく なうけくさせ何をさらす。ナ
松「堪忍さらし。突の車の傍から嵐がうけ出しての。おまへの
溝へ飛込でござる。ア ニツわく肝を潰しました。ヤく野暮な騒で来
るぜ。両刀だな。ト向ふへ門限を気遣ぬ侍らしく七八人づれゆく。侍「さても雨夜の夕ぐれ
来てこれへ。ヤア。ハテ。ト一つ連ぶりしれくて気の毒に見合せて 発端の姿 ●コリヤ

角太。どうらく。角太「イヤどうらくといふて今の娘どもみんなてやどう
することもならんだへ。おやどもどうして甚うる。いぢいはみんなみなふるす
たのだ。今八「コリさあ。そぞろあるのさくらおかてんきやくさおるのま
でハ面白るのハ小袖さへ。今八「おりかてよぶ東京く。コラ東京ハ居らん
だ。やとくろ東京経営「あへく。主人「コレそどもナ。東「あへく。主「先さまもあけて。
変爺が家さ寄来んだ。東「あい。主「昨日ツさ若が出てきてなどおやツけへ。
おやふくおかふかくりまつせん。東「あへく。あい。さ。主「今日さ連う
おぎろきけへ。立侍まつせん。明日どもお出がありさば。お待申まゐると。

東「あゝい。あゝい。トクけりんとを」主「コラ〳〵東彩。一時待んか。」東「あゝい。」主「まゞ独り〳〵。まゞ四五町ども前をのか。」東「あゝい。」主「まゞ早アさ。」東「あゝい。あゝい。トたぶの松りうう」「あゝ〳〵といふらら伺が彩とおつてこつパイ〳〵といふ返事ごの。」民「芝居の奴だろうナイ〳〵といふとおつパ。そろアまゞご。」松「あの方が本家ごらう。サアいろく〳〵べい。是ア〳〵贔屓をこちらのかと思ひポンゞ。」民「ろゞが河ちやア。屋大の内をぬけるゞけ浮る。」松「がうぎと太が唄るゞゼ。ヨンロヨロ。」ト大の声色をつひ。義経「娘へまめで大きう者ゆ。」お倩に居るらう。満しや。又一人「むふふ。ろ乗る小でうちん。これも

「ひとい弓張の。」てうちんそろけてひとの者あるかゆき合ひ「ヤ義浄さん。」大場者「ヨリ大竿さん。」ト晴の夜ふも駒と。駒はきあ〳〵ちゞや。〳〵。」太「川柳点ごと。遠稲〳〵。」義「トキニ何ホく徒てゞやい。」太「倉大夫が會〳〵。」義「〳〵ア和泉町ゝい。」太「舎るナ。」義「アイ遊宮義さ。」義「場へどごらゞあゝ。」太「五段目の出夫物さ。」義「鉄炮場の薬場ゝい。〳〵。あまなまえてゝ。ありや三馬が作ゞやあいゝ。」太「さゝさ。」義「あの本ゝてゝ。」太「アイ。かゝてる上ゆゝが。あ玉八徒ゝたゝりにもゝる迷。西宮で彫ゆゝ。」義「ゞやゝい。」太「そんあゝ西宮新ゞが不く男にゆりやあるか。」太「あるとも

本材木町一丁目

義「ヲヤそんなら。○太「アイさやうなら。○トいはれながらふりかへりて 義「今夜も来てぬい
たるがよいぞ。太「なんのおめへぢやアあるめへし。○義「おまへがはじめ
もると切落の微塵ぢや。○トいひながらぶらぶらひよろひよろと 義「ヤ。おれに万福さん
の内で素人狂言があるによつて。あそびながら来てくれと
いはれしたが。又チヨボでも語つてくれろかい。○情ないへおちやや。継
所に蕎麦屋さんが居てぢや。めつきり冷る。ちよと温飩か
と食て往。義「そばうどん。そばや「そばイ。そばイ引。ぶつかけ温飩。○義「そばや
さん。もう何時ぢやな。初夜過かへ。○そばや「ハイもう四ツまへでご

ござりませ。○義「ヲヤさやうなら。ドレ一ぜんくでんせ。○辛味沢山にしてお
くれ。○そのまに門汗をとつてこませ。なるほど今夜は格別に寒
うてはいかく御当地はあかんわい。○そばや「お江戸は金が沢山でござりますで金
で冷ますまいさ。○義「ぢやうはなよしも又惣身が金ぢやさかい冷が
強いはい。あのや取違伊左衛門ぢや。ハヽヽ。○まア一ぜんおくれ。あ
つうしてくでんせ。○そばや「ハイハイ。○義「なんぢや迷子たづねるのかいの。おのが
身に物ちらんすぢやとなりて。なるほど騒ぐさる。「めんまそうヲ引星。
義「ヤア。○トいかけぬけかへりもどるや なるの調子なア。肝魂が臍の下へ煮込で

八。ハヽヽヽ。コレ〳〵按摩さん。まあ蕎麦食て往んせろ〳〵がた
てるぞ。たてるとハ。まあといふる。コレ〳〵ぢい〳〵さぞや。まごふ出め
が。ごめ〳〵わるさの。ハヽヽヽ。「あんまさんの。大ぎの声〳〵。「迷子の〳〵お蕎麦
按摩さんと長左ヤアリイ。ドドドドン チヤ〳〵チヤン〳〵チヤン。「八ヤイ。蕎麦ア
食よべの。八「まご早の。ライ大屋さん所の居ん。ホ「ユリ〳〵居ん紙ゑて
ムれちやア。おそ出る。八「そんなら小七さん。ホ「食も せろが。迷子の
番屋うろ。油ア。奢ッちやア。出ん。モシ。お立さん。チト。お出き合
あさこのまち〳〵。まごあるの。ハイ〳〵。まあ。おまんぐさ。おあぐん

あさこの。「ライ。そそだやさん。あつくあつのこぐ。ホ「そそだやに迷子只
あつろめ。ふ。按摩組ごま。「ヘヽヽヽ。八「ヤイ。三吉やの。早く走ん。
あの世所。又迷子ふるあんぐぜ。あとの方より。三「迷子の〳〵お。
八「ヤイ。やうまの。迷子とよぐぞと。そそだア食ん。三「そんなら今夜
八そだ。食ふ出さの。八「だまつて食ん。三「あのうアありぐぞん。
お敷で。蕎麦を食ふ出りやア。琴三弦で。素面を食ふ。ありく
結。毎日迷子あれば。ホ「そりやアさうと。ふう一組八。向島
うつ吉の。方ぐぶ。ふう一組八王子ふ。まぐさう往んぜ。「ヘヽヽヽ

め。夜夜中何のボク性でもちづまるのの。夜昼中あっチット
酒落も出まるが。三「コウ〳〵」爺さん。夜夜中。昼昼中。強言と法
叮嚀な事。爺。山中を連れの一人で。大きくこのんざ
く。労苦ゆて。頭ぐ痛がして天窓ぐ痛いとあつさ。〳〵
病気づのて。病大病とあつさ。アあまと活をするふ仏法の。
「山個所ハ日の達者な男ざぜ。三「ヲイ〳〵。こちへて。コウト
どうこいな。ト皿をぶつけわざくん温い。△義津先知ろ隠ざあるが。「ヲイ コリヤ
高ぢのない湯をかくれんな。ト仕方の人ふ。あまとぐ。今きけべ二人の

迷子ぢやが。どういふのんぢやい。「アイーサ。一人でも二人でも探
して。生る味ハ同じるぐぶ。山迷子ぢりの二人一緒ぐ。連れ。
「ヨウちぶ長屋の百成屋千左さん所の婆さんぐぶ。年寄の
所居ぶ形ハ小ぜんぐ。今年ぶて八十九ふ。ありやぜ去年米北
穿鑿生〳〵。迷子ぢ。あつても。ふ兵ハ稼ぐれぢ。あさんの
おぢぶ。ハテ。あの役ぢ。ア。えくあつさ。〳〵。爆稼ぐ土用稼
ぐ生ぐ。とおぢつちやア。おけやせん。ア。ぐぐ。あぐ。あ
さんのおぢれぢ。今年。あ八十九で。迷子ぢ。ぐぢ。

はをぬぐいてまづ歯が生やせん。一体どうして遅ふ
あるんしこなまづあるを知らずにいろんにたまるを人甚だ「イヤ出なきうまい」世話
ゆとやをものの養てうこあるのあいのめでござりまをテ。今
日丸屋の拵子でハ。只今代仁の生そうゝ。きれゝ。出来
さるゞ。深川名人お寄ふ出なをるゝ。げにござりまを。コデ
あゝとさんの出来ぬ。長たゝ屋とやまざござりて。そを
と。彼ふ出連ゐるとうて。ゞ縁るゝ出寄人出ぬるゝ。ゝ。ゝ
いきゐ。七の時ふ出寄ハ出ぬるゝ。げめざりまを。

が。いまゞ宿行ハ出ぬるゝ。イヤ。まゝに出宿ハ来ぬ。
イヤハヤ又ゐるも出矣止でござりはを。「其頃市ゞ面頭だらけゞ
からひまゝと連て逃やアーもゝ。おやゝ。テ。「ナニまゞ歯も
生ぬ人おゞくさんを。ちゝまゝを生ハ行人「イヤくそりや弓
ゞハあるゝ。其つゝ合ぬるゝ。でよのやとゝふ色ゞ。ゐんゞもある
るちやテ。「イヤ。その人生平出ハ後生預で。文章ゐゝ。出念
仏ざりゝ喰て。まゞゞく。食事ゞきます也ぬ。ハテ。出の証據ゐハ。色
生ぬの人食事とやまを。出豆腐の外ハ食事も出ます也ぬ。

「イヤ〳〵其後生預ゞ姫〳〵。」「エ。トびろう金花猫でも化こと
とゆヤスやうなるゆゑ。」「イヤ〳〵そのゆるゆるやあいそりやトット
古まふるのちやゞ。後室さんの後生預といふ人。なゝの種でや
ゝの。天窓ばかり借髪ふ結ふても。内人若借れきでや。
若づやこゝかなこの物の通称。孝づ人江戸の人。年増。後妻つけ
こるゆう。中借こゝ中ごゝ。西若づやこゝ江戸中ごゝ。秋葉のゆゑう。これを結け
て天窓ばかりの後家さんと云ふふの。基まで居ん世ゟ
ゆんゞあらんぞや。ハさよゆら。ト立列去る「どろう降さうてぎ
ア手すとゆ。ハ手さ家ゞ中ゆうの巻〳〵ことでぎりまた。デモ

寒い時ハ寒いゞ人の身に薬ハ五穀の高ゆも宜うぎ
い手すと。「モシ〳〵ゆ手さん茶ハどの位ゆ相場で茶ハゆゆこと。」
「ハイ私ハ百文ゆ対三合。」「コレ丸ゝとも極。西ふいこと
いふのんぢ。」「まんざら百二百の小買ぢるやうぢ。」「コウ〳〵迷子
を探さて茶ぢやア極。」「ハテ縁の極でもある。」「迷
子で茶相場の上りゝぢあるゝ。」「サア〳〵いろ〳〵」「ヲイ
そそ茶湯とゝ。」「ソレ。ナ。ちゝびと心のきそ〳〵てゝん極。
ト茶ぢを湯ふ「ありぢ〳〵。」「サア稼ぎと云ふ。」「ハヽ物くゆ居ん。

「コレサ又いつか。」「モシ〳〵私の名は是〳〵先ー」「まて。」「甚
きさんよー」「まて。」「義理の男の。」「皆〳〵〳〵同じ先ー
やーた。」「ハイ〳〵。そまたちごろ参人まして。」「サア〳〵三吉。提燈
を持て。」「サアどき行く〳〵。ハイ高平。コレサ通ると道が狭へ。アイ
ごめんあさい。」「珍重寺。」「あこが堂建立の。」「ヲイそれ
湯とうけこぜ。」「ハイ先を足べい。」「ホイ山元あさい。」「身上寺。」
「洞堂建立の。」「アイ山〳〵ごけ。そがやさん。」「ト立出ると」「迷
子の〳〵おがく婆さんと長吉郎やく〳〵イ迷子やく〳〵。」

ドドドン〳〵〳〵。「ト」「あゆこゆくもの方へ行ものを解き」「ずーあの方へ解き」「長者口の内
ゆそ行ものを」「方福」「コウト。」「まづあの方も行付ト。」「是〳〵東京様の家
いなかもの。」
敷ぐまづ居ますてよー。」「コリヤ百次郎。」「ヘイ。」「提灯を左り
のまふ持てよー。」「まづ足元の方へ出るものでらのへ。」「ヘー
ひーつて出ます。」「ジく〳〵それでよー。」「あまり近くよせると足
元がちら〳〵して却て出ます。」「みこ。」「燈蓋元晴こそのるの
いのぶナよー。」「でら。」「ヘイ。」「方福」「ク六法陽居さんの家へ
ろくさらうみ。」「でら。」「ヘイ。」「方福」「てあ人出居。」「でら。」「イエ千松どんと長吉

どんと久助どんぐ来ました。万福「ヲヽ。奥ゝへ。でゝ「お吉どん
お祥どん。へエ。夫ゝ万福さんも御出でござりまして。ソシテ若ゝ衆
ハ出先へ出掛て。五福町福ゝ来てびくれは。
万福「ハテそれハ中機嫌でよろこ。モト。橋屋吉郎さゝゝ
御使ハ来ゐんぐろ。アてゝ人出を見め。十六徳三場どの八帳
場ハ居ゝ。でゝ「ヘイ御出ぎりまして。万福「よしく。万福「迷
子の〳〵。長吉郎やく〳〵。万福「ハテ迷子ゝ。コレ百次ふこゝく八
来ゝ。でゝ「ヘ。ト多て万福「ゝゝの。でゝ「ヘイ。万福「在中にでる

きくと林〳〵居ゝのぐ。万福「迷子やく〳〵。ト出れちぐひゝぐゝ。迷子連中の内。
万福「ホヽヲ。基吉どんゝ。ヘイさやうでござ
万福「ヲヽ八具邪さゝ。長ゝ吉ゝ。万福「ヘ。是八具邪さゝ。長ゝ吉ゝ。万福「ヘイ
いりまして。万福「ヲヽ八御家のどくふゝ。大きふ世界。万福「ヘイく
万福「アくユレく。四角世間ふ屋敷の娘ぐ宿り城いまぐ。
万福「別ふくも来らうぐまゝ其つゝりでりんふ来ゐ世人。素人狂
言ぐある。万福「ヘイく。それハ別して御張でござりませう。万福「アイたん
あゝ。アく出来ぐ。万福「ヘイく。万福「迷子やく〳〵。ト出れちぐひゝぐゝ。
万福「ぶんぐぶゝをかくる。

素人とぶ〜きんぶ〜万福　菓さんう。兼　やあこれハ見邪ぎだ〜へハろ
てうちんと立げてあり。

〜ハいました。万福　ちよと近ぢまで。兼　角本此のお様焼をえ
ろう。てうきりおまてとそろてこテ。兼　へ〜〜。トきに　〜先達てれ

お僧ハ。まご出ぬ法ぐござりませんこ。万福　アイいづ見ぬ月の円。
どうぞ出番ぬ方ぐう。兼　それハのうを安いるでござりまを。

お役ふさ人ちまきをるゆう。万福　ちう〜やるのんぐ。まごおまへの
お年で。お役ふ立ぬゆでくハ。兼　イヤこれハおそ見入まをを。イエモウ
甚方もおるゆでくお役に立ません。万福　うそぐろうあまり

おるゆ〜ゆをるうこを。兼　どうもこまり者でござりまを。万福　モシ
地黄でもお用ねゆきこ。兼　へくやうまへ。月邪どうもあろう
後。万福　モシく。地黄よるを邪産に効能のあられるものが
ある。兼　それハあんでごぜ人まを子。万福　それ〜おまへの後代
動。弟一の腎薬。兼　エ。トふうくるくえふ

夜高人　鶏卵たまごウリ
ゆでたまごをるごウリ
玄刻乃鐘聲　ゴラン

素人狂言紋切形巻之上終